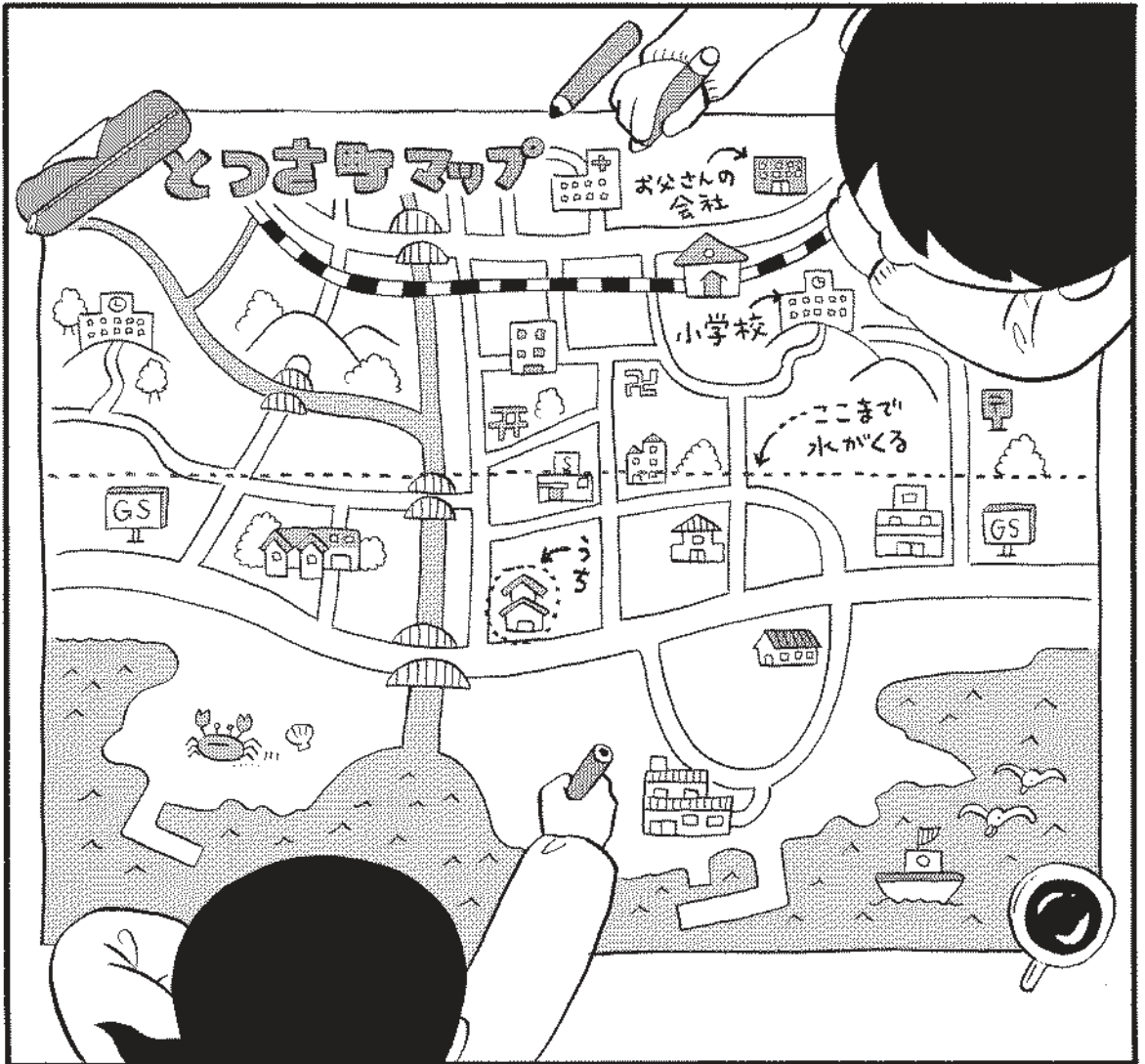


さいがい そな  
[ 災害への備え ]

ひなん みち かんが  
避難する道を考えておく

- ▶ どの道を通るか家族で決めておく
- ▶ 危ない場所がないか確認しておく
- ▶ 実際に歩いてみる



## 避難する道を考えておく

### ■ 状況シートの説明



#### ▶ 場面ごとの説明

- ① 地震がおさまり、外では津波警報のサイレンが鳴っています。みさきちゃんも準備ができ、お母さんが言いました。「よし、避難しましょ。「うん」とみなとくん、みさきちゃん。3人は避難しようとしています。
- ② 「どこへ行ったらいいの?」と、みさきちゃんが聞きました。でも、お母さんとみさきちゃんはどこへ行ったらいいのかわかりません。
- ③ みなとくんが自信満々の表情で言いました。「〇〇〇〇〇」

#### ▶ セリフの例 (行動)

「たしか小学校が避難所だったよね」  
「高い所の方がいいんじゃないかなあ」

#### ▶ 発問例

- ・ みなとくんの家族のようにならないためには、どうすればいいですか?
- ・ 避難場所を覚えておく他に、避難する時に大切なことは何ですか?

### ■ 教訓シートの説明



#### ▶ どの道を通るか家族で決めておく

- ・ 避難場所や避難経路をあらかじめ決めておくことが大切です。
- ・ なるべく安全で広い道を選びましょう。
- ・ 外出先で地震や津波が起こるかもしれません。いつも、どこへ避難すればいいか考えるように意識しましょう。

#### ▶ 危ない場所がないか確認しておく

- ・ 地震が起こると、ブロック塀が崩れたり、自動販売機が倒れたり、道路が陥没したりします。
- ・ 避難する道に、このような危険な場所がないか確認しておきましょう。
- ・ 避難する時は、危ない場所に気をつけて歩きましょう。

#### ▶ 実際に歩いてみる

- ・ 避難する道を決めたら、実際に歩いてみましょう。
- ・ 何分くらいかかるか、危ない場所はどこか、確認しましょう。
- ・ 考えていたルートより早く避難できる道が見つかるかもしれません。
- ・ 実際に歩いてみた後、もう一度家族と話し合って避難するルートを決めましょう。

### ■ 東日本大震災の教訓

津波はどこまで来るか予想できません。「避難先を複数想定するようにした」という人もいます。また、被災体験から伝えたいこととして、「自分の住んでいる場所が、海から近いのか遠いのか、高いのか低いのか、知ることが大事」「子どもには、避難ルートを自分で考えて判断できるようになってもらいたい」などが挙げられました。



さいがい そな  
[ 災害への備え ]

れんらく ほうほう ほうき  
連絡方法を決めておく

- ▶ 「災害用伝言サービス」を利用する
- ▶ 離れた所に住む親せきや知り合いに連絡する
- ▶ 家にメモを残す



## 連絡方法を決めておく

### ■ 状況シートの説明



#### ▶ 場面ごとの説明

- ① お母さん、みなとくん、みさきちゃんは、小学校へ避難している途中です。「お父さん、だいじょうぶかな」。みなとくんは、仕事に行っているお父さんのことが心配です。お母さんは「ちょっと電話してみるわ」と言って、お父さんに電話をしました。
- ② 「ツー、ツー」。「つながらないわ」。お母さんがお父さんに電話をしました。まったくつながりません。
- ③ 「どうしたの？お父さんだいじょうぶ？」と、みなとくんも心配です。お父さんと連絡がとれず、お母さんは「〇〇〇〇〇」

#### ▶ セリフの例 (気持ち)

「どうしよう」  
 「困ったわ」  
 「お父さんどこにいるのかしら」

#### ▶ 発問例

- ・みなとくんの家族のようにならないためには、どうすればいいですか？
- ・お父さんと連絡をとるために、どんな方法がありますか？

### ■ 教訓シートの説明



- ・災害時には、電話やメールがつながりにくなります。
- ・災害が起こった時、どのようにして連絡を取り合うか、家族で決めておきましょう。
- ・連絡方法はひとつだけでなく、いくつかの方法を考えておきましょう。

#### ▶ 「災害用伝言サービス」を利用する

- ・災害用伝言サービスは次の3種類あります。
- ・①災害用伝言ダイヤル（171をダイヤル）、②災害用伝言板（携帯電話のメニューから）、③災害用伝言板（パソコンでWEB171と検索）
- ・使い方や特徴がそれぞれ異なるので、体験利用日（毎月1日と15日など）に練習しておきましょう。
- ・災害時は、固定電話や携帯電話より公衆電話の方が、また電話よりもメールやインターネットの方がつながりやすいことがあります。

#### ▶ 離れた所に住む親せきや知り合いに連絡する

- ・被災地内の電話はともにつながりにくなります。
- ・被災地以外に住む人に連絡して、伝言してもらいましょう。

#### ▶ 家にメモを残す

- ・家にメモ（日時、行き先、誰と）を残します。
- ・防犯のため、メモは玄関の扉の裏側など屋内の目立つ所に残します。
- ・伝言の内容やメモを貼っておく場所など、家族で話し合っ、決めておきましょう。

### ■ 東日本大震災の教訓

携帯電話について「停電で充電できなくなり、使えなくなった」という声が多かった一方で、「通話はできなくなったが、メールや連絡用のアプリなどで連絡がとれた」「用事がない時は電源を切っていたら、3週間ぐらいい電池がもった」という知恵もありました。